

古志原地区まちづくり総合戦略

めざす姿

- ① 子どもから高齢者まで世代を超えた交流を通じて、持続可能な共創の地域づくりをめざします。
- ② 地域資源を活用し、魅力のある地域づくりをめざします。

古志原地域の特徴

- ① 戦後急激な都市化の進展に伴い、住宅地化が進んだ。
- ② 各種学校、病院、商店、運動施設、交通など生活に必要な施設等が多く利便性のある住みよい街である。
- ③ 若者団体などさまざまな団体が子どもに関わり見守っている。

古志原地域の課題

- ① 高齢者人口が多くなっており、また核家族化が進展している。
- ② 自治会加入率が低く、助け合い活動への参加者がやや少ない。
- ③ 若者の地域活動参加が少ない。
- ④ 地域全体が住宅地化しており、自然豊かな公園等が少ない。

将来に向けた取り組み

「緑山公園の整備・活用事業」

緑山公園は、古志原地区が一望でき、また知る人ぞ知る桜の名所で地域のシンボルの一つであるが、近年枯れた古木や雑木が茂っている状況である。そこで、公園整備に子どもや若い世代を含めた多世代の参加を促すことで、自分たちの公園だという認識を広め、桜まつりをはじめ、各種交流事業を実施するなど、交流と賑わいの場とし、地域活性化につなげる。

「若者等交流の場（ミーティング）の創出」事業

若者が地域活動に参加するきっかけづくりとして、若者の交流の場をつくり交流することで、若者の視点での地域課題解決や地域活動参加につなげる。また、多世代の交流、意見交換の場を設定し、世代間交流をすすめるとともにまちづくりに寄与する。

「サロンによる集いの創出」事業

誰でも気軽に立ち寄って交流できる広場「（仮称）ろくさんサロン」を開設し、居場所とし交流の場とする。子育て中の親、一人暮らしの高齢者、行き場のない若者など多様な人が集い、世代を超えた交流をすることで、福祉・教育などの課題を共有し、解決への手がかりを得る。

「マルシェによる地域産業活性化事業」

地域の生産物等を持ち寄って販売する機会を設け、地域の生産物を地域で消費し産業の活性化を促すとともに、住民の交流を促進する。